

第35回医療薬学公開シンポジウム開催報告

金沢大学附属病院 薬剤部 宮本謙一

秋晴れの日曜日の午後、下記の内容で本シンポジウムを開催した。本シンポジウムは北陸三県の薬剤師会、病院薬剤師会の後援を得たこともあり、近隣各地から多数の薬剤師の参加を得たばかりか、高速道路1000円の効果もあって東海や四国地区からの参加者も散見され200名に達する盛会となった。また、会場は、金沢大学附属病院が本年5月に全面改築が成ったので、そのお披露目と経費節約を兼ねて新病院の宝ホールで開催した。当日の会の運営も病院薬剤師を将来しよって立ってくれるであろう本学医療薬学専攻の大学院生を中心に当研究室の学生の手によって進められた。

さて、本シンポジウムのテーマは、「医療現場の問題点に対する科学的取り組み」とした。近年の薬剤師業務は多岐にわたり、かつ薬剤師は大いに薬物療法を中心とした医療に貢献しているのであるが、それを評価し、例えば、診療報酬に反映しようとしたとき、“エビデンスが無い”とよく言われている。しかし、繁忙な日常診療の中で問題点を見出し、検討し、解決することは相当のエネルギーを要する。ましてや、それらを取りまとめて学会や論文発表することは至難である。しかしながら、共通の問題意識をもつ者が集まりグループとして取り組むことによってこれらの困難を乗り越え、発展している例がいくつかある。本シンポジウムでは、北海道TDM研究会の活動を北海道大学の菅原先生に、愛知県病薬のオンコロジー研究会の活動を愛知医科大学病院の斎藤先生に基調講演として紹介いただいた。さらに、北陸地域で積極的に医療薬学的な研究発表をしている5名のシンポジストに事例の紹介をいただいた後、パネルディスカッションを行った。パネリストとフロアとの活発な意見交換の中で得られた一つの方向性としては、医療現場と大学薬学部が協力することによりエビデンス構築が可能であり、大いに推進すべきであろうとの共通の認識を得たように思った。

シンポジウム開催概要

1. メインテーマ 「医療現場の問題点に対する科学的取り組み」
2. 日 時：平成21年10月4日（日）13：00～16：35
3. 場 所：金沢大学附属病院 宝ホール
金沢市宝町13-1
4. 参加費：無料
5. プログラム
 - 13:00 開会の辞 金沢大学附属病院 宮本 謙一
 - 13:05 基調講演 座長 福井大学医学部附属病院 政田幹夫
 1. 「北海道TDM研究会の活動を通じた地域の薬剤師支援」
北海道大学大学院薬学研究院 菅原 満
 2. 「愛知県病院薬剤師会オンコロジー研究会の活動」
愛知医科大学病院 斎藤寛子

14:05～20

休 憩

14:20 シンポジウム（発表15分、討論5分）

座長 富山大学大学院医学薬学研究部 今村理佐
金沢大学附属病院 崔 吉道

1. 富山県における次亜塩素酸ナトリウム製剤の使用実態およびその安定性に関する検討

富山大学大学院医学薬学研究部 今村理佐

2. がん化学療法における好中球減少症と薬学的安全管理

福井大学医学部附属病院 矢野良一

3. 在宅ホスピスケア推進のために薬剤師として何ができるか

富山県済生会高岡病院 田辺公一

4. 簡易懸濁法と製剤情報－テオフィリン徐放性製剤を中心に－

北陸大学薬学部 毎田千恵子

5. 悪性腫瘍患者におけるバンコマイシンの薬物動態変動とその機序

金沢大学医薬保健研究域 松下 良

16:00～16:30 総合討論

16:30 閉会の辞 北陸大学薬学部 宮本悦子

6. 参加者数 200名

	会員	非会員	計
病院薬剤師	97	68	165
薬局薬剤師	1	7	8
その他	8	19	27
計	106	94	200

7. 日本医療薬学会認定薬剤師資格更新研修単位登録申請者 22名

8. 日本薬剤師研修センター集合研修認定シール（2単位）受領者 194名